

＜保健室での様子＞

本園の保健室は、けがや具合の悪い時に来るのはもちろんのこと、絵本も置いてあり、図書室のような機能を兼ねている。保健室では、子どもたちがクラスの枠を越えて出会う中で過ごしている。養護教諭は、けがなどへの応急処置の対応をしながら、保健室で過ごす子どもたちと関わっている。子どもたちが保健室で過ごす理由は「痛いから、もう少し休もう」「絵本を見たい」「今は静かな場所にいたい」「誰かに気持ちを受けとめてほしい」など様々である。

異年齢の子どもたちが一緒に過ごす保健室は、どの学年の子どもにとっても落ち着ける空間にしたいと考えている。「幼稚園は安心」と思える場の一つとして保健室が位置づくことを大切にしている。

3歳児：これまで3歳児は、4、5歳児の様子をじっと見るといった姿が保健室では見られた。12月の発育測定を初めて保健室で行ったこともあり、3学期になり、保健室は自分たちも過ごして良い場所なんだ、といった様子が見られるようになった。それでも、雨の日など、4、5歳児が多く過ごすような時には、その過ごし方をじっと見ている姿もある。同時に、クラスで泣いている人がいると「保育室まで来て」と呼びにくる、けがした人がいれば、「これからくるから」といったことを伝えにくる姿からは、友達と一緒に過ごしている意識が感じられ、友達を思いやる姿が伝わってくるようになった。また、けがをした時に、先生とではなく、ひとり、もしくは友達と連れだってくるようにもなってきた。

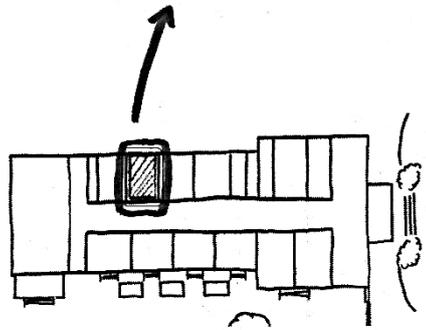
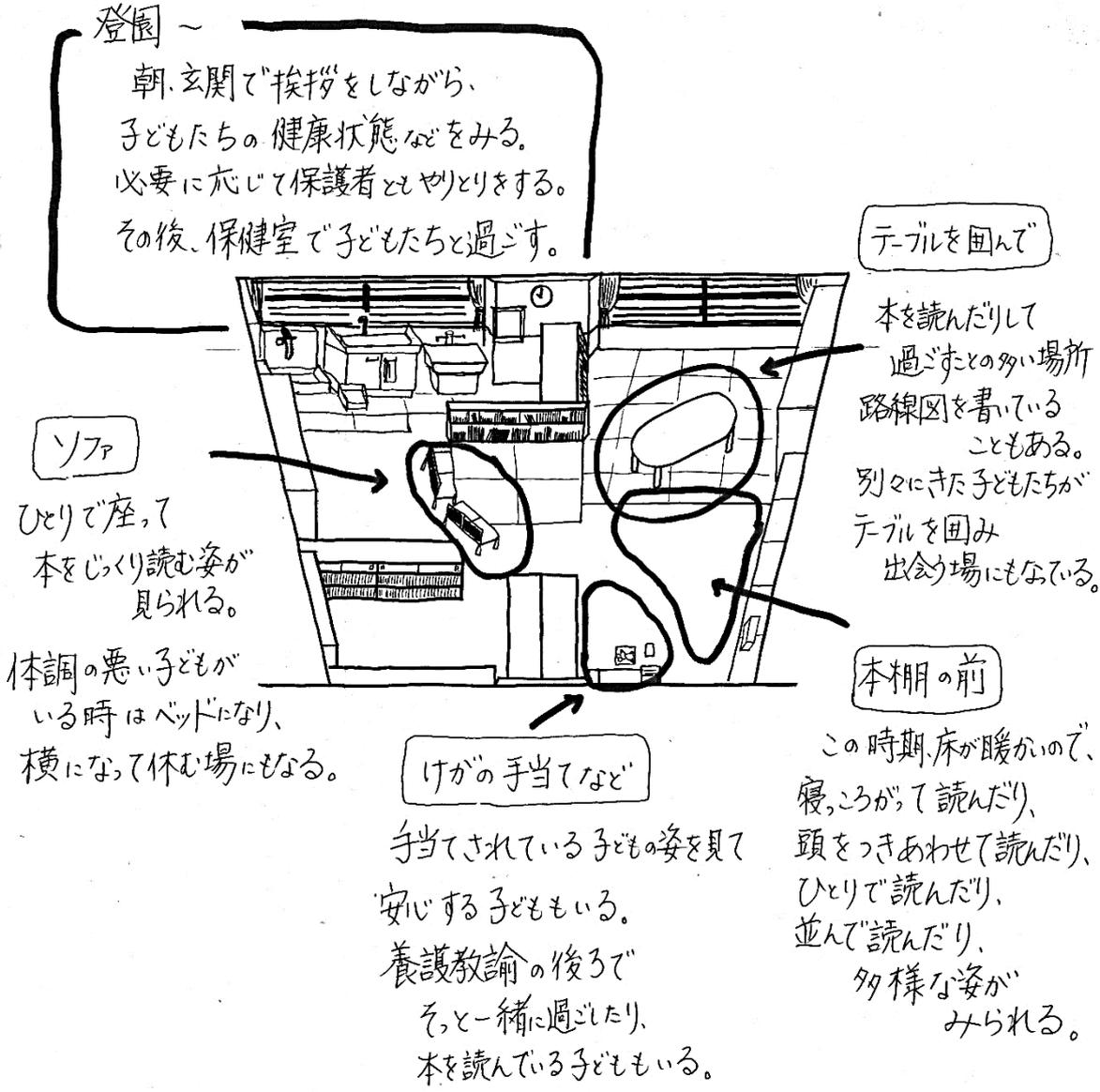
4、5歳児の過ごし方から感じることとあわせて、保健室での過ごし方を教師からも伝え、関係を築いているところである。けがをして来た時には、安心してからだを預けることが出来るような声かけや関わり、手当てを心がけている。

4歳児：保育室と近く、様々な訪れ方をしている。この時期、外で遊んで次の遊びの前にくる子ども、本を読みたいとくる子ども、保育室で安心して過ごせるようになったからこそ保健室を選んで過ごす子ども、落ち着く場所になっている子ども、等が入れ替わり訪れて過ごしている。また、友達とのつながりが強くなったからこそ、こっそり遊びたい、一緒に過ごす子が休みで遊ぶ人がいない、友達とうまく遊べなかった、といった理由でちょっと違った場所が必要になり、保健室で過ごすこともある。保健室を選んで過ごすそれぞれの子どもの思いを受けとめ、養護教諭としてその時間が次へつながるような関わりを意識して、担任と連携しながら子どもたちを支えている。また、保健室で自分もみんなも気持ちよく過ごせるよう、この時期だからこそ感じられることを、少しずつ伝えている。

5歳児：生活や遊びを充実させるために保健室を活用する姿が多く見られる。例えば、自分たちの充実した時間を伝えにくる姿がある。コマ、指編み等できたことを伝えにくる姿は、保健室で過ごす3、4歳児には憧れの存在となる。また、けがの手当て等で立ち寄った時に、保健室で過ごす4歳児が向き合っているいざこざや、困りごとを話すと、そのことに真剣に向き合い、自分の話をしたり、一緒に解決してくれたりする姿が見られる。また、年中時から路線図を書くことに熱中している子どもは、友達との関係が深まり、その時間が少なくなってきた。今は、自分が落ち着くための時間として選んで過ごしているのかもしれない。それぞれの在り方を丁寧に受け止めつつ、このような時間や場所を保障する関わりを心がけている。保健室で偶然出会う子どもとの関わりを通して、5歳児としての自信や自覚を高めることのできるような働きかけを心がけたい。

<最近の保健室での過ごし方>

保健室 保育研究シート (養護教諭) 渡邊 満美



片づけ ~ 降園
各学年の様子をとらえて
保健室の片づけを促しながら
保育室に戻るお声をかけていく